

## U06a 原子核はどのようなものであるか、とその検証方法

小堀しづ

原子核の大きさは約  $10 - 14$  mです。どうして原子核の大きさは  $10 - 14$  mであるか。原子核の大きさは陽子のラブの公転軌道を示す。陽子のラブの質量エネルギーは  $1.503 \times 10^{-10}$  Jです。陽子のラブの公転軌道は、 $8.665 \times 10^{-24}$  Jm  $\div$  陽子のラブの質量エネルギー =  $8.665 \times 10^{-24}$  Jm  $\div$  ( $1.503 \times 10^{-10}$  J) =  $5.765 \times 10^{-14}$  mです。この公転軌道を全ての陽子のラブがランダムに自転しながら公転している。陽子のラブの大きさは、 $1.233 \times 10^{-41}$  Jm  $\div$  陽子のラブの質量エネルギー =  $1.233 \times 10^{-41}$  Jm  $\div$  ( $1.503 \times 10^{-10}$  J) =  $8.204 \times 10^{-22}$  mですから、十分に大きい軌道です。陽子のラブの比重は  $5.779 \times 10^{83}$  で、とても重い。全ての陽子のラブが  $5.675 \times 10^{-14}$  mの公転軌道をランダムに回転しているので、硬い凹凸のない球体である。この内側を中性子のラブが公転している。中性子のラブは陽子のラブと電子のラブが結合したもので電荷はないです。中性子のラブの公転軌道は、 $8.665 \times 10^{-24}$  Jm  $\div$  中性子のラブの質量エネルギー =  $8.665 \times 10^{-24}$  Jm  $\div$  ( $1.5038 \times 10^{-10}$  J) =  $5.762 \times 10^{-14}$  mです。この軌道を全ての中性子のラブが左に公転している。(特願 2019 - 119178)

従来、原子核の中には、陽子と中性子が混合して存在すると考えられている。これを検証するには、原子核に電磁気を当て、反射光の方向を調べる。一定方向に反射するはずです。従来考えの場合、反射光は不規則の方向に反射する。(特願 2019 - 127350)